



Osaka University Global Campus 2024

OUグローバルキャンパス
(大阪大学 箕面キャンパス)



OUグローバルキャンパスのコンセプト

OUグローバルキャンパス(大阪大学 箕面キャンパス)では、高度なグローバル人材を育成すること、日本語・日本文化を世界へ発信すること、外国語・外国学研究成果で地域の市民と世界を結ぶことを通じて、地域社会との共創を実現し、大学と地域社会の価値向上を目指しています。

地域・社会・市民との共創を通じたブランドの醸成

地域、国際交流、地球環境を視野に入れた安心で快適なキャンパスの実現

OUグローバル
キャンパス
(OUGC)

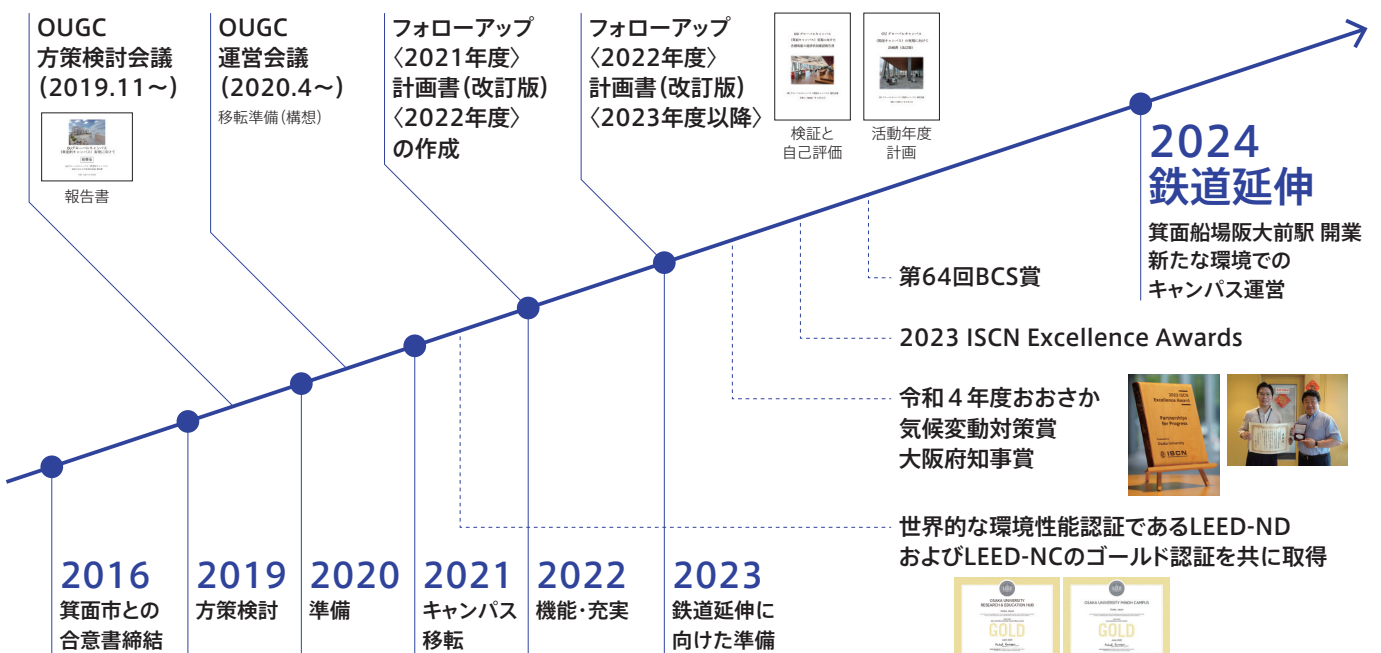
社会
との
共創

- 1 教育 25の専攻語と多様な教育プログラムによる人材育成
- 2 研究 世界の言語とそれを基底とする文化を研究教授
- 3 国際 社会に向けた国際交流活動の発信
- 4 地域 調和のとれた地域社会との共創活動
- 5 経営 持続性の高い効率的なキャンパス経営

OUGCを支えるシステム

- 「OUGC運営会議」を中心としたキャンパス運営
- 全国初の市立図書館と一体となった大学図書館の管理運営
- ステークホルダー(箕面市、船場組合、地元団体等)

OUGCの歩み



地域との連携の取り組み

第1回 シリーズ「さまざまな視点で世界を見る」及びトルコ料理と箕面ビールを楽しむ会



2023年7月22日(土)に箕面キャンパス1階大講義室において、第1回「さまざまな視点で世界を見る」を開催しました。これは、外国語学部・人文学研究科外国学専攻の専攻語や教育・研究の特色を生かして、その時々の世界の諸課題と関連するテーマを設定し、参加者に新たな視点を得る体験をしていただく企画として開始したものです。第1回のテーマは「トルコ・シリア北部地震」で、チャリティ講演会としました。今後も第2回、第3回と続けていきます。

第1回 大阪大学外国語学部・外国学専攻シンポジウム及びオクトーバーフェストin阪大船場



2023年10月21日(土)に箕面市立文化芸術劇場大ホールにて、第1回大阪大学外国語学部・外国学専攻シンポジウムを開催しました。外国語学部の教育理念「言葉を究めて世界へはばたく」をメインテーマに、2023年4月に活動を開始した人文学研究科附属複言語・複文化共存社会研究センターの設立記念も兼ねて、外国語を学ぶことの意味を問い直す大変有意義なシンポジウムとなりました。本企画も、今後もしっかりと続けていきます。

大阪大学夏まつり



2023年7月1日(土)に箕面キャンパスにおいて第42回大阪大学夏まつりを開催しました。小雨の降る中の開催となりましたが、2022年を大きく上回る約4,500名の来場者がありました。2022年に引き続き、大阪船場繊維卸商団地協同組合のみなさんが講義棟北側の道路を「歩行者天国」にして下さり、イベントを盛り上げて下さいました。地域連携の好例となるお祭りにするべく、今後も学生たちへの応援をよろしくお願いいたします。

語劇祭



年に一度、二日間にわたり、学生が専攻する言語での演劇を披露しています。どなたでも入場可能で、日本語字幕付きです。

それぞれの言語が話されている地域の文化や社会を反映させた作品が多く、民族衣装や音楽等もお楽しみいただけます。子ども向けの明るい作品から大人向けのややシリアスな作品まで、多彩なラインナップとなっています。

日本語日本文化教育センターのPBL活動



日本語日本文化教育センターが提供する交換留学生対象の教育プログラム(メイブル・プログラム)では、留学生たちが生活する箕面について探究するPBL(Project-based Learning)に取り組んでいます。ここでは、グループごとのプロジェクト活動を通して、箕面の自然・歴史・文化・社会などを幅広く知り、地域の課題を見つけて解決方法を考え、発表・発信していきます。2022年9月に来日した留学生のPBL成果発表会は、2023年7月11日(火)に実施されました。

外国学図書館(箕面市立船場図書館)での箕面キャンパス学生・教員による市民向けイベント



外国学図書館(箕面市立船場図書館)では、図書館をハブとして大学と市民をつなぐ様々なイベントを実施しています。学生の企画による子ども向けイベントや、教員による講座や楽器演奏イベントを通じて、大学の学びや研究を市民に届ける場所となっています。



大阪大学外国語学部は25の専攻語を有し、学年定員は580名です。外国語学部を有する唯一の国立大学法人として大阪大学を特徴づけています。

外国語学部の教育の目標

- グローバル人材の育成
- 専攻言語とそれが話される地域の文化や社会について多角的な視野から総合的かつ相対的に理解する能力を身に付け、国際社会で活躍できる人材の育成
- 入学年次から卒業年次までの一貫した言語教育を提供するのはもちろんのこと、言語、文学、歴史・社会をいわゆる「3本柱」(専攻言語によっては政治・経済分野を含めて「4本柱」)として専攻語地域のジェネラリストを育成

外国語学部の「学び」

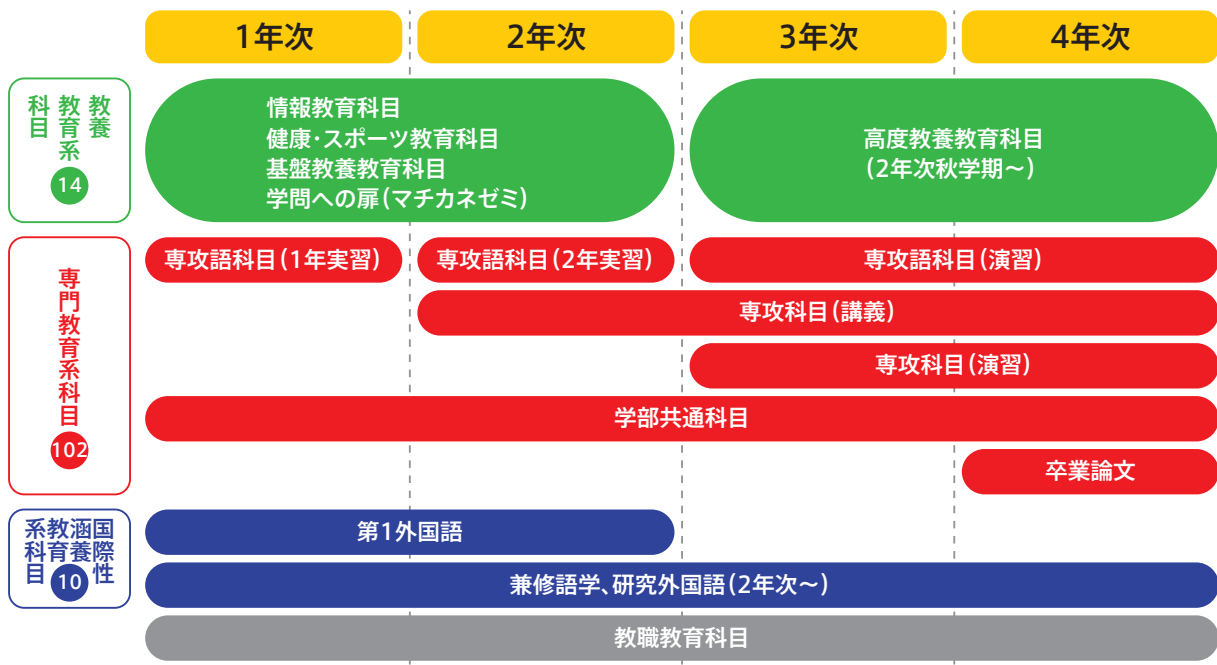
- 言語研究と人文社会的地域研究の成果を融合させた「言語地域学」あるいは「語圏学」
- 「言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶCulture Through Language, Language Through Culture」

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム

複数の高度な外国語運用能力と高い専門性を身につけ、国際舞台で活躍できる人材を養成するため、外国語学部の学生が、文学部、人間科学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、基礎工学部、数理・データ科学教育研究センターが開設する専門教育科目を体系的に履修できる学部横断型のプログラムです。修了すると、総長とプログラム開設部局長もしくはセンター長との連名で修了認定証を発行します。



カリキュラム



学年定員

<専攻語別の募集人員>

中国語37名、朝鮮語18名、モンゴル語18名、インドネシア語18名、フィリピン語18名、タイ語18名、ベトナム語18名、ビルマ語18名、ヒンディー語18名、ウルドゥー語18名、アラビア語24名、ペルシア語18名、トルコ語18名、スワヒリ語18名、ロシア語24名、ハンガリー語18名、デンマーク語18名、スウェーデン語18名、ドイツ語31名、英語60名、フランス語24名、イタリア語18名、スペイン語31名、ポルトガル語24名、日本語37名

大学院人文学研究科 外国学専攻・日本学専攻応用日本学コース

外国学専攻 24の言語とその地域について多角的・徹底的に学べるカリキュラム



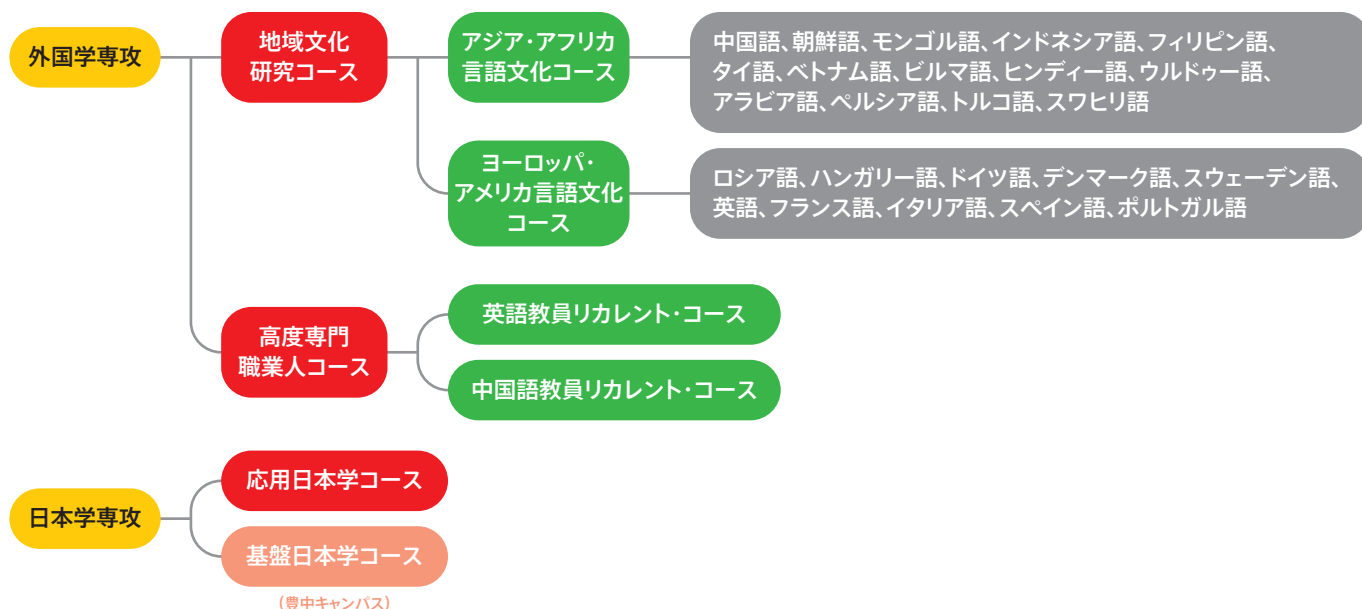
外国学専攻は、世界の24の言語とそれを基底とする文化一般について、様々なディシプリンと実践にわたって総合的に教授・研究する「外国学研究」を主眼とし、人文社会科学諸分野のディシプリンの成果を応用しつつ、世界の諸地域の言語と文化の特徴を考察し、世界で活躍する人材を育成しています。①地域文化研究コース(アジア・アフリカ言語文化コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース)、②高度専門職業人コース(英語教員リカレント・コース、中国語教員リカレント・コース)の2コースを擁しています。

日本学専攻応用日本学コース



日本学専攻は、基盤的研究と応用的展開の双方をカバーする日本最大規模の日本研究の大学院であり、基盤日本学コースと応用日本学コースの2コースを擁しています。応用日本学コースは、比較や交流の観点から日本の言語・文化・社会・歴史・文学などを世界的視野の内に捉え、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎としてグローバルに活躍できる実践力・応用力を備えた人材を育成します。

組織図



学生定員

外国学専攻	博士前期課程 1年あたり定員: 25名 総定員 50名	博士後期課程 1年あたり定員: 11名 総定員 33名
	日本学専攻 応用日本学コース	博士前期課程 1年あたり定員: 10名 総定員 20名

日本語日本文化教育センター(CJLC)



昭和29(1954)年に設置された留学生別科を出発点とする日本語日本文化教育センター(Center for Japanese Language and Culture【CJLC】)は、70年にわたり、国費外国人留学生を対象とする日本語・日本文化教育の拠点機関として、我が国の留学生受け入れ施策の一翼を担ってきました。現在は、毎年50以上の国・地域から200名近い留学生を受け入れ、多彩な教育プログラムを展開しています。

日本語・日本文化研修留学生プログラム(日研生プログラム)

日本語・日本文化研修留学生(日研生)プログラムは、日本語・日本文化の分野を専攻する国費外国人留学生を対象とした11ヶ月のプログラムです。留学生たちは、将来、日本語・日本文化の分野で活躍する人材になることを目標に、毎日、日本語で専門的な授業を受けながら日本語と日本文化の勉強に励んでいます。「研究コース」の学生は、指導教員の指導のもとで、日本語で論文を執筆し、「研修コース」の学生は、日本の企業等に見学に行き、日本語でレポートを作成します。



メイプル・プログラム(短期留学日本語日本文化特別プログラム)

メイプル・プログラムは、短期留学日本語日本文化特別プログラムです。9月に開始し(授業は10月から開始)、翌年8月に修了します。毎年、20以上の国・地域から来た交換学生が、このプログラムで勉強しています。その最大の特徴は、さまざまな体験を通して日本を学ぶことで、その一環としてProject-Based Learning (PBL)を行なっています。これによって、「知る」「伝える」「話し合う」というスキルを向上させ、「他の文化の人たちや社会とつながることができる人材」の育成を行なっています。



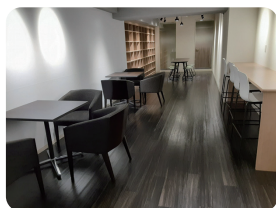
予備教育プログラム

ここでは日本の大学へ進学することを目指す留学生たちへの教育も行っています。1年間(4月～翌年3月)の勉強を経て国立大学へ進学する国費学部留学生プログラム(Uプログラム)と、半年間(10月～翌年3月)の学習後、本大学へ進学する大阪大学ファウンデーションプログラム(Fプログラム)があります。

日本語・日本文化教育研修共同利用拠点事業

本センターは2011年度に文部科学大臣より教育関係共同利用拠点(「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」)として認定を受けました。それ以降、他大学の留学生・日本語教育実習生・日本語教育に携わる教員のために、本センター開設授業及び海外教育事情に関する情報蓄積や意見交換の場を広く開放し、我が国における日本語・日本文化教育の質的向上と発展を支援しています。

グローバルビレッジ 箕面船場



スタディルーム



交流会

箕面キャンパス内に位置する日留混住型学生寮。入居者の約1/3を日本人学生(女子学生)とし、外国人留学生と日本人学生が日常的に交流できる生活の場を提供しています。また、寮生同士の交流を促進すべく、学寮チューターや管理会社主催による交流ラウンジを活用した交流会を実施しています。

外国学図書館(箕面市立船場図書館)



図書館外観



「あそぼう!ハンガリーのカーニバル」
(2023年2月18日(土)実施)



「阪大生がリポートする台湾」
(2023年3月12日(日)実施)

大阪大学外国学図書館と箕面市立図書館の蔵書・機能を兼ね備えた図書館であり、国内の国立大学初の事例として大阪大学が指定管理者として一体的運営を行っています。



多文化が進む日本では、言語や文化的背景が多様な子どもが増加しています。この子どもたちは、制度面の壁、母語・母文化の喪失、アイデンティティの揺らぎといったさまざまな課題に直面しています。

阪大ふくふくセンターが置かれている箕面キャンパスは、25の専攻語を有し、言語文化・地域研究・語圏学を専門とする教員や学生が在籍しています。私たちはこれまでの経験を活かし、外国にルーツを持つ子どもに関わる支援活動や教育研究活動により、「複言語・複文化の共存」を当たり前と思える社会の構築を目指します。

活動内容

1. 支援活動の推進

- 箕面キャンパスにおける、外国にルーツを持つ子どもの支援や教育の相談窓口を一元化し、地域社会や地方自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等にとっての利便性を高めます。
- 活動に関心を持つ学生・卒業生・教職員を「メディエーター」として登録し、必要とされる支援内容等とのマッチングを経て各現場へ紹介するとともに、現場の実情を把握します。

2. 研究・教育活動の推進

- メディエーターに対する登録説明会やフォローアップを実施し、言語や文化が異なる人々の間を仲介する力を育てます。
- 活動の成果や課題を取りまとめ、講演会や研究会を開催します。
- 国内外の研究・教育組織との情報共有や共同研究を進め、課題の解決を図ります。

3. 連携体制の構築と提案・提言

- 自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等との協力体制を構築するとともに、大阪大学内の関係機関との連携・協力によるデータ収集や課題の把握を担います。
- 学術的見地に立って、複言語・複文化共存社会に向けた教育の在り方や行政の進め方を提言し、学区や自治体の枠組みを超えた仕組み作り等に貢献します。

協力・連携体制



国際教育交流センター(IRIS)箕面分室



フランス語カフェ
(2023年4月14日(金)から計7回実施)



トルコ語カフェ
(2023年4月24日(月)から計3回実施)



クッキングParty
(2023年5月23日(火)実施)

留学生・日本人等一般学生の交流スペース、相談対応、各種情報提供と案内、催し開催の場として開室されています。

歴史

webサイトは
こちら▼



林蝶子氏

大阪大学外国語学部・外国語専攻・日本学専攻応用日本学コースの起源は、大正10(1921)年に大阪の実業家・林蝶子氏(1873-1945)が「大阪に国際人を育てる学校を」という理念のもとに、学校設置資金として私財100万円を国家に寄付したことに遡ります。政府は、この寄付金を基に大阪外国語学校を大阪市天王寺区上本町8丁目の地に創設しました。

その後、昭和19(1944)年4月に大阪外事専門学校と改称され、昭和24(1949)年の国立学校設置法施行により大阪外国語大学が発足、国立大学で二つしかない外国語大学としての歩みが始まりました。昭和29(1954)年に留学生別科(現在の日本語日本文化教育センター)が設置され、昭和54(1979)年には箕面栗生間谷に移転、平成19(2007)年10月の大阪大学との統合を経て、令和3(2021)年に現在の箕面船場東へキャンパスが移りました。



OUグローバルキャンパス(大阪大学 箕面キャンパス)
Osaka University Global Campus

〒562-8678 大阪府箕面市船場東三丁目5番10号